

# 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所名	グループホーム せせらぎ		
所在地	周南市鹿野上2755		
電話番号	0834-68-5454	事業所番号	3577400066
法人名	社会福祉法人 鹿野福祉会		

訪問調査日	平成 19 年 12 月 6 日	評価確定日	平成 20 年 3 月 31 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

## 【情報提供票より】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	11 人	常勤 7 人	非常勤 4 人 (常勤換算 7, 9 人)

### (2) 建物概要

建物構造	1階木造 造り	
	1 階建ての	1 ~ 階部分

### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額	18,600 円	敷金	無	円
保証金	有	100,000 円	償却の有無	無	
食費	朝食	300 円	昼食	350 円	
	夕食	350 円	おやつ	100 円	
その他の費用	月額	円			
	内訳				

### (4) 利用者の概要 (11月1日現在)

利用者数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
	要介護 1	2	要介護 4	1	
	要介護 2	2	要介護 5	1	
	要介護 3	2	要支援 2	0	
年齢	平均 83.5 歳	最低	76 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 博愛病院 歯科 同上
-------------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

### (優れている点)

職員は研修にも積極的に参加(広島、島根など県外にも)し自己研鑽に努めておられます。生活歴の把握に努め、日ごろの生活、会話の中から本人の希望を聞いたり、汲み取るなど、個別支援を重視した取り組みをしておられます。朝食は、起床時間に合わせて個別に提供され、できる限り家庭に近い環境で、その人らしく暮らせるよう支援されています。

### (特徴的な取組等)

法人施設全体で高齢者の相談支援に取り組み、ホームも地域住民の相談窓口の一つとなり安心につながっています。生活歴の把握に努め、日頃の生活、会話の中から本人の希望を聞いたり、汲み取るほか、夜勤者は個人別の「毎日ノート」に詳細に記録するなど、個別支援を重視した取り組みをしておられます。

## 【重点項目への取組状況】

### (前回の評価結果に対するその後の取組状況)

前回指摘事項については栄養士の指導を受け、カロリー計算を実施し、水分補給についてはペットボトルにストローを入れ飲みやすくするなど工夫しておられます。

### (今回の自己評価の取組状況)

管理者は職員全員に自己評価表を配布して勉強会で説明し、各職員がそれぞれ記入したものを持ち寄り、検討して管理者がまとめられました。気づき、反省など振り返りの機会となり、更なるサービスの質の向上に熱意を持って取り組んでおられます。

### (運営推進会議の取組状況)

3ヶ月に1回、市役所職員、民生委員、介護相談員、利用者、家族、職員などで開催し、ホームの活動状況、評価報告を行い、意見交換をしておられます。

### (家族との連携状況)

度々面会に来られる家族と、面会の少ない家族があるようですが、職員は定期的な報告のほか、電話で状況を報告したり要望を聞いたり、行事への参加のお誘いをするなど連携を取るよう努めておられます。

### (地域との連携状況)

地域の自治会への加入はしておられませんが、母体施設で行う盆踊り大会へ、多くの住民が参加され交流しておられます。個人的に地元の敬老会へ参加したり、近くの住民が花や野菜などの差し入れもあります。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>法人理念「洞察、受容、信頼、共感、平穩」を全職員が共有し、家庭に近い環境でその人らしく、安心して暮らし続けることができるよう支援しているが、地域密着型サービスとしてのホーム独自の理念は作られていない。</p>	<p>・地域密着型サービスとしてのホーム独自の理念の作成</p>
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>法人理念を掲示しミーティングで話し合い、実践に向け取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域自治会には加入していないが、母体施設で行う法人・自治会共催の盆踊り大会へ、地域住民、さんさ保存会、中学生の参加があり交流している。地域の祭りや敬老会などへは希望者が参加しており、近隣住民から、野菜、花などの差し入れもある。</p>	<p>・地域行事の把握と参加</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p><b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>理事長、施設長、管理者は評価の意義を理解し、前回評価結果の指摘事項を職員で検討し、改善に取り組んでいる。今回も職員全員に自己評価表を渡し、皆で検討・評価して作成している。</p>	
5 (10)	<p><b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>3ヶ月ごとに開催し、市担当職員、民生委員、介護相談員、利用者、家族、職員等が参加し意見交換している。自治会長、地域住民代表の参加はない。</p>	<p>・住民代表の参加の検討</p>
6 (11)	<p><b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>担当部課(合併により遠くなった)とは電話等で相談している。地域の支所との連携はなくなった。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	年3回「せせらぎ新聞」を発行し、職員の異動も知らせている。同時に担当が利用者の状況を書き添え、金銭出納簿、領収書のコピーなどを送付している。その他随時電話で報告している。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	事業所の苦情受付窓口は書類に明示し、処理手順も記載しているが、外部機関の申し立て窓口は周南市と国保連合会のみである。家族からは運営推進会議や訪問時に意見や要望を聞き、苦情申し立てがあれば法人の苦情解決委員会で審議し改善に取り組んでいる。第三者委員も選任し、法人本部に意見箱を設置している。	・すべての外部機関の明記と周知
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤7名、非常勤4名を確保し、緊急時には管理者、非常勤職員が対応できるよう柔軟な勤務体制を取っている。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職は最小限に抑え、変わる場合は、異動以前から顔を出し、馴染むよう配慮している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修は、本人が希望すれば(自費の場合もある)積極的に参加できるように配慮し、県外研修(広島、島根)へも参加している。新人職員は、管理者が指導している。	
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、総会・研修会にも参加している。施設間の相互訪問も行い交流している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
13 (31)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	施設からの利用者が多く、本人が納得した上でのサービスの利用ではない。	・納得した上でのサービスの利用の検討
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
14 (32)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者は調理、洗濯物干し、洗濯物たたみ、ごみ捨てなど、人の役に立つ仕事を積極的に選んで参加し、職員は利用者から教えられたり、一緒に支えあう関係を築いている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
15 (38)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴の把握に努め、日頃の生活、会話の中から本人の希望を聞いたり、汲み取るほか、夜勤者は個人別の「毎日ノート」に詳細に記録するなど、個別支援を重視した取り組みをしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
16 (41)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者の気持ちを大切にして、本人、家族、運営者、職員などの意見を聞き、毎月1回ケアカンファレンスを開催し、課題とケアを検討し、介護計画を作成している。	
17 (42)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間に応じた見直しをすると共に、変化が生じたときは本人・家族と相談し、関係者で話し合い随時の見直しを行い、新たな介護計画を作成している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
18 (44)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人・家族の状況、要望に応じ、医療機関受診、理美容院の送迎、墓参り、自宅訪問など個別の支援をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関がかかりつけ医となり、週4～5日往診があり、緊急時には受診の送迎を行なうなど適切な支援をしている。眼科、皮膚科、耳鼻科などへの受診は家族が連れて行く。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化対応は家族と良く話し合い、入院或いは法人内の他施設へ入所するなど適切に支援している。ホームでの看取りはしない方針である。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	利用者の誇りやプライバシーを損ねることのないよう支援している。勉強会をしたり、管理者が注意しあえる関係づくりをしている。記録の保管についても配慮している。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	おおよその日課はあるが一人ひとりのペースを大切に、朝食も朝早い人や遅い人など利用者に合わせるなど希望にそって支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	3食ともホームで調理し、職員と一緒に楽しみながら食事をしている。利用者の希望を聞き(寿司の希望が多い)メニューに加えたり、材料の下準備、盛り付け、後片づけなど、職員と一緒にしている。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	入浴は週3回午後からと決められており、一人ひとりの希望やタイミングにあわせ入浴を楽しんでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	新聞、テレビ観賞、つるし柿づくり、散歩やドライブ、買い物、喫茶店でのお茶、職員とのおしゃべりなどの楽しみごとや、掃除、洗濯物たたみ、台所仕事の手伝いなど活躍できる場面づくりの支援をしている。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、ドライブ、喫茶店でのお茶、敬老会への参加など一人ひとりの希望に添い支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束、抑制はしていない。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関に施錠はせず、鈴をつけ察知している。	
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故報告書を記入し、改善策を講じて事故防止に取り組んでいる。ヒヤリはっと報告書の記載が少ない。	・危険への気付きの収集と報告書への記録の徹底
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署の救急救命訓練は実施しているが、急変事故に対しての日頃からの訓練が実施されていない。	・日頃からの訓練の実施
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の訓練は年2回、夜間を想定した避難訓練も実施し、避難場所も確保している。市指定の非難場所の確認はしていない。	・市指定の避難場所の確認

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報をファイルし、目的、副作用を理解し、看護師の指導も受けている。薬はその都度手渡し、服用を確認している。必要な情報は医師、看護師にフィードバックしている。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後一人ひとりに合わせた口腔ケアの支援をし、義歯の清掃・保管についても支援している。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	全員の食事摂取量、水分摂取量が一目でわかるよう工夫し、記録している。水分摂取が少ない人は、好きな飲み物をペットボトルに入れ、ストローで飲むようにし、水分不足に配慮している。カロリー計算も栄養士の指導で実施している。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し勉強会で学習し、実行している。特に水虫による感染防止、キッチンでの漂白剤、アルコール消毒、手洗いの励行など注意している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用空間には和室があり、座ったり寝転んだりでき、居間にはソファ、個人個人の椅子が置かれ、思い思いに、居心地良く過ごせるよう工夫している。季節の花も飾られている。調理の音や匂いなど五感に働きかける工夫をしている。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家具、調度品、仏壇等を持ち込み、写真や絵を飾り居心地良く過ごせる工夫をしている。居室は中から鍵をかけるようになっており、昼食後は鍵をかけて過ごす人もある。	

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	社会福祉法人 鹿野福祉会 グループホームせせらぎ
所在地	山口県周南市大字鹿野上2755番地の1
電話番号	0834 - 68 - 5454
開設年月日	平成 13 年 2 月 1 日

## 【実施ユニットの概要】 (19月11日現在)

ユニットの名称	グループホームささらぎ			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの 利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名	
	要介護1	3	要介護4	1
	要介護2	2	要介護5	1
	要介護3	2	要支援2	
年齢構成	平均 83.5 歳	最低 76 歳	最高 94 歳	

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	職員全員に自己評価票を配布、勉強会を開き記入方法を説明し、それぞれが個人で評価した物を持ち寄り、みんなで検討しながら、できていること、できていないことを評価しみんなで共有できるようにした。
評価確定日	平成 19 年 11 月 13 日

## 【サービスの特徴】

できる限り家庭に近い環境で、その人らしく暮らして頂く援助に心掛けています。

一人ひとりの体調やもてる能力を活かし、寝たきりにしない事を目標に援助しています。(散歩やお手伝い等をして頂く事で、ADL向上を図っています)

排泄はトイレでを目標に、徹底した随時誘導を行っています。(昼夜問わず、テープ式おむつ使用者ゼロ。紙パンツ使用者も、本人ご希望の1名。尿意、便意訴え無い方も、リハビリパンツとパット使用で、日中の失禁は殆どありません。)

「手を出さない」「口をださない」「目をはなさない」といった対応を基本に、利用者のできない部分への援助を主にして行っています。

地産地消に心がけ、季節の地の野菜を多く使い、3食とも職員が手料理しています。母体施設の施設長には実費で毎日検食をお願いし、口答でコメントをもらう事で食事の質の向上を図っています。月に一度母体施設の栄養士に検食してもらい、アドバイスを受けています。また、面会時ご家族の希望があれば実費で検食を提供しています。

回想療法、傾聴療法等色々な療法を取り入れ、職員全員の統一介護に心掛けています。

日中、玄関等は自由に出入りできるよう、鍵はかけない対応をしています。(夜間職員が一人の間は施錠対応) また、居室には内鍵(利用者が内から自分で鍵をかけたりはずしたりが自由なシステム)は設置していますが、外鍵(利用者が開けられない鍵)は付けず拘束防止の徹底を図っています。

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		理念は職員と共有できてこそ存在価値があるものと認識しており、これからも理念の共有に努める。
2	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		継続し理念の理解と共有に努める。
3	<p><b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		勉強会や会議等で、常に運営者の理念は共有できるよう話している。
4	<p><b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p><b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>		文章での明確な表示を、家族や地域に発信していきたい
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p><b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		
7	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		地元の行事等には、これからも積極的に参加していく。
8	<p><b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		地域貢献は運営者の重要方針でもあり、これからも継続して取り組むことで、利用者への地域からの支援協力につなげたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	理事長、施設長より自己評価を踏まえた改善に取り組むよう、管理者は常に指導を受け、それに基づいて職員に具体的に話している。	自己評価表を全員に配布。勉強会で自己評価及び外部評価の意義の理解と活用を具体的に説明して、全員での評価に取り組む事で、外部評価の意義を共有したい。
10	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	利用者やサービスの実際、取り組み状況等は報告している。良い意見は参考にして取り組んでいる。	地域代表より、火災訓練に参加希望があったため、当日参加してもらい、評価を受けた。今後も継続したい。
11	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議には、必ず2名参加してもらっている。また、日頃より電話等では良く相談にのってもらっている。	これからも今以上連携していきたい。
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	管理者が支援センターと兼務している関係上、地域福祉権利擁護事業との関わりが深く、勉強会等で一緒に学んでいる。また、社協の専門員さんとの交流もあり、必要な方にはいつでも対応できる状況にある。	現在は対象者はいない。
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設長、管理者が頻繁に事業所を訪問し、職員一人ひとりの性格、援助について把握、また、利用者に声かけし不満や要望等を聴き取る事で虐待防止に努めている。また、職員にストレスを溜めない方法等をアドバイスしている。	外部より虐待について相談や情報があれば、包括支援センターや市の職員に情報提供し解決していく体制は整っている。
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、利用説明書、重要事項説明書を渡すと共に、分かり易い言葉で説明している。	こちらが十分説明しても、内容を理解されない家族もあり、より具体的な文章の作成に取り組みたい。
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の面会時には、利用者の状況を伝え、意見や希望、気づき等を積極的に聴き取るようにしているが、なかなか意見を言われる家族はいない。	定期的に文章で、面会に来られない家族の思いも聴き取りたい。
16	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	暮らしぶりや職員の異動状況は、定期的に作成する新聞で知らせている。金銭管理は、出納帳を作成し、定期的に送付。健康状態については、悪化であれば些細な事でも、電話で報告している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	<b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		
18	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		家族が気軽に意見や苦情が言えるシステム作りに取り組みたい
19	<b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		
20	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		
21	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
22	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		職員が希望する研修には、できる限り参加させる。
23	<b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		
24	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		これからも、積極的に交流し、他の施設の良い所は取り入れて行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		ストレスの軽減は大切であり、これからも取り組んでいきたい。
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		職員個々が、自分の意見をはっきり言えるよう指導すると共に、意見は、できる事は実施し、できない事については本人が納得するまで十分説明し、意見を無駄にしない。
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		本人から聞き取れない部分を家族や親戚から聞き取り援助に活かす事を検討中。本人が納得されて入所される方については、事前に聞き取るようにする。
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		希望があれば事前訪問していく。
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		通所のシステムがなく、いきなり入所サービスとなるため、本人が納得した上でサービスは大変困難である。ただし、1ヶ月程度で本人が納得し、落ち着いた生活ができるような対応はしている早く馴染む為の対応は、家族と相談し協力を得て実施している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		個別援助を重視し、今以上支え合う関係を築きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		他人である職員がそこまでやってくれるなら、家族である自分達ももっと協力しなければとの思いが引き出せるように、努力したい。
35	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		遠方の家族にも、電話や手紙等で関係の維持を図るよう努める。
36	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりが必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		意思疎通が困難となられた方への意思の汲み取りを課題としたい。
39	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	常に本人にとって何が良くて、何を見直すべきかを検討し、家族の希望等も聞いた上でケアを考えている。運営者、介護相談員等の意見も考慮して介護計画を作成している。	
42	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間に応じて見直しを行っている。体調不良等の急な見直しが必要な時は、主治医、看護師の意見を重視、家族とも相談の上新たな計画作成をおこなっているがすぐケアプラン会議を開催することが困難で有り、引き継ぎの形で共有している。	緊急時のケアプラン会議に取り組みないか検討していく。
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常生活上の気づきやエピソード等も、個別援助記録に経過表として記録している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	地域密着型の施設ではあるが、多機能型ではないため対象外と思える。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員やボランティアの協力はえている。また、消防訓練には消防署職員の協力を得て、指導を受けている。	
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	家族、ボランティア、民生委員等の見学は常に受け入れている。希望される研修も断ることはない。	見学、研修、体験、ボランティア等希望があれば積極的に受け入れたい。
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	グループホームなので、そこまでの対応はできていない。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		必要であれば常に連携できる下準備はしておく。
49	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		必要と判断された方は、かかりつけ医の紹介で専門医を紹介してもらい受診している。ただし、主治医や家族から必要との判断がない限り専門医の受診は困難な現状にある。
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		かかりつけ病院の看護師に色々相談し指導を受けて対応している。又、日常的な相談事は母体施設の看護師に相談している。
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		利用者が入院したら、事務長や看護師を通じて、早期退院に向けて情報交換している。また、度々職員が面会し状態把握に努めている。退院が決まれば、受け入れ準備の為に、病院に出向き対応等について情報収集している。
53	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		早い段階で、家族に直接主治医と話してもらい、方針を決めてもらうように働きかけている。方針が決まれば、家族の希望に添った対応をしている。
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		重度化した利用者のできる事とできない事は明確化し、職員で共有している。また、終末ケアには取り組めない事情があり、早い時期に家族と相談し、併設施設へ移動の希望の有無を確認。希望に添った対応をしている。
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		別の居所への移り住は、職員間でも十分検討はするが、最終的には家族の希望が優先となっている。異動先への十分なホローはするが、ダメージが防止できているか否かは不明。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b></p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>勉強会や引き継ぎ等で、利用者サイドで考える習慣を身に付ける研修をしている。職員同士で注意し合える関係作りを重視、思いやりの言葉遣いの必要性を共有できるように配慮している。</p>	
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>意思表示不可能な利用者の思いが援助計画に取り入れ作成できるよう、センター方式を取り入れたケアプランの作成を検討している。</p>	<p>現在、センター方式のうち、3シートを取り入れ実施しているが、除々に全部を切り替える方向で考えている。</p>
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b></p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>利用者のお仕事を上げない、増やしていく援助を心がけている。</p>	
59	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入浴や食事等大まかな時間は決めているが、入浴は順番を入れ替える等の工夫で、本人のペースで対応している。食事は、個々のペースでゆっくり対応し、職員の都合での援助は極力しない努力をしている。</p>	<p>体調不良で通院者が多い時は、時々崩れる場合があるため、その時の対応等をきっちり決めて、利用者にも不利にならないようにしていく。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>日中寝間着を着替え、本人の好みの物を着用してもらっている。理美容は本人の希望の所に行けるよう、職員が付き添って対応している。</p>	<p>利用者本人がおしゃれに関心もたれるような援助を取り入れたい。化粧療法等も実施してみたい。</p>
61	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>その日食べたい物を聞き取り、メニューに加えている。直接調理に関わる事は難しくなってきたが、材料の下準備等は手伝ってもらっている。後かたづけは、希望者にはお願いしている。</p>	
62	<p><b>本人の嗜好の支援</b></p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>一人ひとりの嗜好に合わせ、好みの飲み物やおやつで対応している。また、たばこ等は事故に十分配慮し、家族と相談しながら本人の希望通り吸えるよう対応している。</p>	
63	<p><b>気持ちのよい排泄の支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄チェック表を活用。一人ひとりの排泄パターンを把握し、おむつに頼ることなく、日中は全員トイレ誘導している。夜間も、リハビリパンツか紙パンツに止め、ポータブルやトイレでの排泄に心がけて対応している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	<p><b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>		
65	<p><b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66	<p><b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>		
67	<p><b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>		
68	<p><b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>		
69	<p><b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>		
70	<p><b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>		
71	<p><b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
72	<p><b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<p><b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。</p>		家族参加で行う行事(日帰り旅行、バーベキュー等)を企画したい。
(4)安心と安全を支える支援			
74	<p><b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。</p>		
75	<p><b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>		
76	<p><b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>		
77	<p><b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>		
78	<p><b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>		
79	<p><b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>		
80	<p><b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。</p>		些細な事でも、ヒヤリハットで記録に残し、大きな事故防止につなげるよう指導している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		医師や看護師と連携を密にして、減らせる薬は減らしていきたい。
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		食中毒予防の為に、夏場はできる限り生物を避け火を通すよう対応している。調理した物は二時間以内に処分し、残りを次の食卓には出さない様になっている。まな板等は定期的に殺菌対応している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	スロープを設置し足の悪い方も訪問できるようにしている。また、訪問者が入りやすい様、ドアに鍵はかけていない。玄関周りは清潔に保ち、季節により鉢植えの花を置いて美観に配慮している。	
91	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	居室入り口に家族との写真を貼ったり、和紙等で作成した表札等を飾り生活空間を演出している。草花が咲く頃には、野の花を摘んで飾り、季節感をだしている。また、レースのカーテン等で光の調節に配慮している。	
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間には和室が有り、座り込んだり、寝ころんだりと自由に過ごしてもらえるようにしている。また、板の間の空間にはソファを置いて、皆さんでテレビを見たり、談話したりできるようにしている。	
93	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベッドは備え付けであるが、その他の家具については、馴染みの仏壇や家具を持ち込めるスペースを確保している。	
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	トイレ等は毎日水を流して掃除し、悪臭がしないように気配りしている。外気温はできる限り窓の開け閉めで調節し、利用者の負担にならない温度調節に配慮している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	廊下やトイレには手すりを設置、トイレも歩行器や車椅子が使用できるスペースを確保、自立を図っている。廊下等の共同空間も歩行器ですれ違える広さを確保している。玄関にはスロープを設置している。	
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	できる事は自分で、できる力はお手伝いいただく事に、目は離さない、手は出しすぎない援助をしている。	
97	<b>建物の外周リや空間の活用</b> 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	季節の良いときにはベランダでお茶を楽しんでいる。玄関周りには季節の草木の鉢を置いて四季を楽しめる配慮をしている。また、玄関のスロープにはてすりを設置、安全に活動できる配慮をしている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	<input type="checkbox"/> 家族の2 / 3 くらいと <input type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている <input type="checkbox"/> あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 職員の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 家族等の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない